

5月の園だより

令和6年4月26日

杉並区立西荻北子供園

園長 須田 なぎさ

「遊びの中で学んでいること」

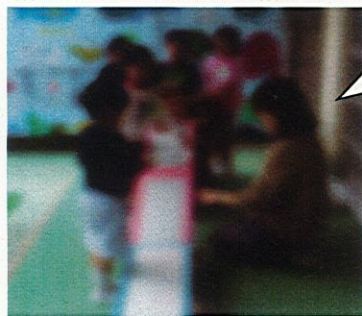
副園長 小森 三奈子

入園・進級してから3週間がたちました。子供園には、毎日元気な子どもたちの声が響いています。新入園児は、保育者と一緒に過ごしたり、毎日楽しく遊んだりする中で、少しずつ安心して園生活を過ごすようになってきました。進級児は、新しい環境に慣れ、自分のしたい遊びや友達との関わりを楽しんでいます。また、年長組は、年長組になった嬉しさを感じ、張り切って友達と一緒に当番活動をしたり、小さい子の世話をしたりしています。幼児一人ひとりが主体的に遊びや生活を進め、「西荻北子供園が大好き」と思えるよう、今年度も子供園の職員一同で保育を進めていきます。

子供園では、毎年、園内研究を通して職員の保育の質の向上を目指しています。昨年、一昨年は、2年連続で『幼児の“やりたい”を支える環境の工夫』について研究し、区の課題研究発表を行いました。今年度は、園内研究のテーマを『幼児の“やりたい”を支える環境の工夫 ～試したり工夫したりする姿に焦点を当てて～』とし、保育者としての学びを深めることにしました。

遊びが面白くなることで繰り返し、新たな気付きや考えが生まれます。子供園で大事にしている『遊び』の中には、多くの『学び』があり、これが、小学校以降の学びの基礎となります。

4月中旬、年長組の子どもたちが、「板が真っすぐ(平らな状態)だと転がらないから、坂をつくろう！」と板積み木を斜面にし、ビー玉を転がす遊びを始めました。しかし、途中でビー玉が横から落ちてしまいました。保育者は、幼児の「長いコースをつくってビー玉を転がしたい」という思いを受け止め、思いを実現できるように、自分たちで選んで使える素材を用意しました。また、一緒に考えたり、試している姿を見守ったりしました。すると幼児は、ビー玉が横から落ちないように壁があるといいということを見つけた。縦半分に切ったトイレトーパー芯をつなげました。ビー玉を転がしてみると、芯の角度や貼り方によってビー玉が途中で飛び出てしまうこともあります。幼児は、コースをつくっては転がして試し、自分たちで何度も貼りなおして調整しながらコースをつくっていきます。一人でうまく貼れないときには、「ここを持っていて」と友達に頼み、押さえてもらうとセロハンテープで繋げやすくなっていました。「もっと長くしたい」という思いを友達に伝え「いいね」と思いを受け入れてもらい、4人で長いコースができました。長いコースにビー玉を転がし、端まで転がすことができると「もっと長くしよう」と、次のめあてに向かって動き、片付けの時間まで、この遊びは続いていました。



どうしたらビー玉が落ちないかなあ？



ビー玉がゴールまで行くように、もっと長く繋げよう！

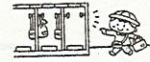
大人からすると、ただ遊んでいるだけと捉えがちですが、子どもたちは、この遊びを通して、
・自分の思いや考えを言葉や形にして表現すること ・遊びに必要なものを選んでつかうこと
・友達と共通の目的に向かって取り組むこと ・うまくいかなくても、諦めず繰り返し取り組むこと
など、様々なことを学んでいます。

子どもたちの発達や実態に応じて、学ぶ内容や学び方はそれぞれ違いますが、どの幼児も遊びを通してその時期に必要な力が身に付くように、私たち保育者は、日々、環境や援助を考え、工夫しています。

今後も保育の中で幼児の「なんでだろう?」「こうしたらどうなるかな?」「あ、いいこと考えた!」「分かった!こうすればいいんだ」というワクワクする心を大切に保育をしていきます。



子どもたちの様子と今月のねらい



3歳児 うさぎ組

毎日笑顔で登園し、すぐにやりたい遊びを見付けて過ごしています。ちょうちょうのペープサートを持ち歩いたり、砂場で砂の感触を楽しんだり、ままごとでごちそう作りをしたりと、個々がやってみたいと思った遊びを保育者と一緒に楽しんでいます。弁当が始まってからは、朝から「今日は〇〇が入ってるんだ。」と話してくれます。楽しみなことがあると、朝の身支度や弁当準備も自分でやってみようとする子どもたちです。

<今月のねらい>

- 保育者と戸外で体を動かして遊んだり、やりたい遊びをしたりすることを楽しむ。
- 身近な春の自然に興味や親しみをもつ。
- 身の回りのことを自分でやってみようとする。

<家庭との連携>

これから暑さが増し、汗ばむ日が増えてくると思います。子どもたちが戸外で風を感じながら体を動かして遊んだり、水や泥を使って遊んだりすることもあります。汚れたり汗をかいたりしたときは着替えますので、脱ぎ着しやすい服を意識してみましょう。

4歳児 くま組

「先生こっちきて!」「見て見て!」と声を掛けることが増え、新しい担任や保育者に親しみの気持ちをもつようになってきました。くま組としての生活にも少しずつ慣れてきて、保育者と一緒にすることで安心し、少しずつやりたい遊びを見付け始めています。園庭では、新しく遊べるようになったすべり台やジャングルジムを繰り返したり、運動遊具のボックス(赤・青)や棒、三角コーンなどを使い、自分なりに組み合わせて遊んだりすることも楽しんでいます。

<今月のねらい>

- やりたい遊びを見付けて、保育者や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。
- 戸外で体を動かす遊びの楽しさや心地よさを感じる。
- 身支度や手洗い、うがい、着替えなど、自分から取り組もうとする。

<家庭との連携>

ガラガラ・ブクブクの2種類があることが分かり、イラストを見ながら、やってみようとする姿が増えています。習慣となるよう、ご家庭でもやってみましょう。

また、暑さを感じる日が増えていきます。汗をかいたり、泥遊びをしたりして、着替えをする機会が増えます。汚れ物を持ち帰った次の日には、補充用の着替えをお持ちください。また、着替えの服や、ハンカチ、ティッシュなどの持ち物に、名前がついているかどうかを確認して、持たせてください。

5歳児 ぞう組

年長組になり、新しく使える遊具で遊んだり、年少児のお世話をしたりして、進級したうれしさを感じています。当番活動も張り切って取り組んでいます。遊びでは、友達を誘い合って一緒に遊ぶ楽しさを十分に感じています。今月はその中で、「思いを共通にしながら遊びを進めようとする」という経験ができるようにしていきます。また、こいのぼり製作は“布染め”という新しい技法に出会い、ぞう組みんなでひとつの大きなこいのぼりをつくることに期待感や満足感を抱いているようでした。

<今月のねらい>

- 自分の思いを伝えたり、友達の思いを聞こうとしたりしながら、遊びを自分たちで進めようとする。
- 学級のみんなで体験したこと（井の頭公園遠足）を生かして遊ぶ楽しさを感じる。
- 身近な自然の変化や動植物の生長に興味や関心をもつ。

<家庭との連携>

進級して張り切っていた4月が終わり、緊張や期待の糸が途切れて、疲れや保護者の方への甘える姿が見えてくる頃かと思います。お子さんの頑張りや園での様子を聞き、受け止めつつ、ご家庭ではゆっくり休めるようご配慮をお願いします。

ほしグループ 長時間保育

園庭では桜が散り、青々とした葉が伸びてきました。花壇のあちこちに姿を現したダンゴムシを探して、毎日、花壇の草の下をのぞき込んでいます。捕まえた虫の様子がよくわかるように、ペットボトルを切って作った、虫かごを用意すると、ダンゴムシを入れて、その様子を観察しています。これから、夏に向かって、いろいろな生き物を見つける機会があると思います。今月も、自然を通して感じることを、考えることを大切にしていきたいです。

保育室では、大きな紙にクレヨンで自由に殴り描きをし、その上にぞう組とくま組の幼児で絵具を使ってはじき絵をしました。絵具がきれいにクレヨンをはじく様子を、驚き、面白がり何度も繰り返し塗っていました。できた作品は、葉の形に切り取り、壁面の大きな木の葉っぱにしました。今月も、いろいろな感触、感覚を楽しみながら製作活動をしていきます。

<お知らせ>

園の向かい側に、マンションの建設が始まりました。建設工事は、来年3月末までの予定です。大型車両が出入りするときは、誘導員をつけて安全に作業してもらえるようお願いしてありますが、登降園の際には、十分気を付けてください。

何かお気付きのことがありましたら、園長までお知らせください。よろしく願いいたします。

